

# 最優秀賞



## 「うんとこドッコイショ！」

鳥根県 郷原 剛志さん 68歳

### 作品のエピソード

男性高齢者グループ「グランパ in 雲南」では、絵本・紙芝居・マジック・あそび歌で地域の子育てを応援しています。今日は、山間地域の女性グループが廃校になった小学校で開いている「谷笑学校子ども教室」で絵本「おおきなかぶ」の読み語りにあわせて実演中。「おおきなかぶ」はなかなか抜けません。グランパと子供たちが力を合わせて“うんとこドッコイショ！”ようやくかぶは抜けました！子供とグランパの最高の癒しタイムです。

### 審査員のコメント

●地域のつながりの深さなどを肌で感じられるようです。その姿をしっかりと発信してくれている1枚です。(渡部先生) ●おじいちゃんたちの真剣さが写真にとっても出ていて、子供たちにとっても印象深い行事として残っていくんじゃないかと思いました。(奥山先生) ●高齢者のコンテンツに子供を引っ張りこむのではなく、子供が喜ぶことを自分たちで考えてやるおじいちゃんたちの企画力に1票！(安藤先生)



## 優秀賞

### 「ママ修行中！」

三重県 松井 強さん 47歳

#### 作品のエピソード

地域の産婦人科を訪れ、助産師さんの指導の下、赤ちゃんの抱き方を学ぶ小学生。この日のテーマは『命』。産婦人科と連携し、子供たちに命の大切さと、ママにはお産した時の感動を思い出してもらい自己肯定感を得てもらった内容でした。

#### 審査員のコメント

●周りになかなか赤ちゃんがいないと思うので、このような体験は心にずっと残ると思います。(奥山先生) ●ママたちも出産のときを思い出し、改めて子供の命の大事さなどを感じて、それをまた自分の子供たちに一生懸命伝えようとする熱を感じました。(安藤先生) ●数字や理論で命の大切さは感じるが、抱っこして重さを感じたり触れたりする感覚の命というのが、こうした形で地域ごとにあることに驚き惹きつけられました。(渡部先生)



## 優秀賞

### 「まつりはおいらにまかせろ！」

東京都 安藤 涼子さん 42歳

#### 作品のエピソード

地域の子供みこしでのひとこまです。格好ばかりがいつちよまへの2歳児ですが、これからこの町を支えていく担い手になってほしいです。

#### 審査員のコメント

●お祭りが中心じゃなくて子供が中心になっている写真の構図が良いですね。小さいころから地域のお祭りに馴染んでいくというのは重要で「子育てを応援する地域の力」というテーマにぴったりですね。(安藤先生) ●祭りとは楽しむだけでなくその地域の共同体、つながり、地域の絆などを再確認する環境だと感じています。つながりの空間が大切なんだということをよく伝えている温かい作品ですね。(渡部先生) ●枝豆が渋い!笑。その地域の大人びた雰囲気にも自分も参加してるんだよというのが表れている。こうやって大人になっていく、少しずつ成長していくんだらうなあと感じました。(奥山先生)



## 優秀賞

### 「地域のお茶会、楽しいよ！」

三重県 藤田 珠希さん 中学1年生

#### 作品のエピソード

桑名のお茶会で、地域のおばあちゃんたちにお茶を出しました。上手に出せたと褒められました。

#### 審査員のコメント

●日常の中、日本ならではの文化を一時的にでも取り込むのは自分のことを知ったり相手のことを知る良い機会。やってみようというひとつの姿勢を表してくれている1枚といえます。(渡部先生) ●地域の人が声をかけ褒めて育ててくれる温かさを感じました。この子のとびきりの笑顔が場を和やかにしているんだらうなと思いました。(奥山先生) ●伝統的な行事は厳格な堅苦しいイメージがあります。この子の笑顔がこの場にいたかったな、次回行ってみようかなという気持ちにさせる誘引力のある写真だと思いました。おばあちゃんたちも次世代に継承できた手ごたえを感じたのでは。(安藤先生)



## 優秀賞

### 「皆の力で虫送り」

神奈川県 清水 進さん 64歳

#### 作品のエピソード

神奈川県秦野市に伝わる盆の伝統行事「下大槻百八炬火」の一コマです。先祖供養、五穀豊穡、無病息災を願い水田地域を一回りします。子供たちは地域の年寄りたちの指導を受けながら神神輿や囃子の太鼓を担当します。他では見られなくなった伝統行事を通して地域のふれあいと子供たちの輝く瞳が美しいです。

#### 審査員のコメント

●こうやって子供たちは地域の一員としての根っこを育てていくのでしょうか。服装からスポーツの後に地域の伝統行事に参加しているような日常性が読み取れ、かしまらない良さを感じました。(奥山先生) ●その土地、地域を安定化させる祈りを大人と子供と一緒にやることは、現代においても重要だと改めて思いました。(安藤先生) ●まさに地域の方だと思いました。塾やTVゲームなど忙しい中で、行きたくないと言いながらもあえて参加してみるとおもしろいということに気付き伝統につながっていく…地域の方の力によって支えられている象徴だと感じました。(渡部先生)



## 優秀賞

### 「多文化あそび塾」

鳥根県 芝 由紀子さん 41歳

#### 作品のエピソード

Unnan 多文化まちづくりカフェでは、子供たちが遊びながらいろいろな国の文化を学び交流する場として、多文化あそび塾を開催しています。先生役は雲南市在住の外国出身のみなさんです。みんなが住みやすい街となり、子供たちの笑顔が世界に広がりますように。

#### 審査員のコメント

●雲南市は多文化共生に力を入れているが、このようなことを発信することにより我が町でも取り入れてみようかなというアピールになれば良い。ダイバーシティの1枚ですね。(安藤先生) ●日本の各都市が国際化の一步を踏み出している1枚。2020年の東京オリンピックのときには、この子供たちが世界の窓口との懸け橋になる力になっていく気がします。(渡部先生) ●子供は遊びを通じてなら、言葉が通じなくても友達になれるんだらうなあという気がしました。遊びの力、とびっきりの笑顔、その環境を作る大人たちの役割をうまく表しています。(奥山先生)